

天文学

解説・備考 アマチュア天文家の佐久間精一氏が、神田茂、五味一明、富田弘一郎3氏から引き継いだ一戸直蔵の資料のひとつである。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第15号、31号、35号、37号、46号、60号、61号、571号

大分類 刊行物
中分類
小分類

様式
材料 紙

制作者 一戸直蔵

制作時期
制作場所
印章・銘記

指定種別
指定番号
指定日付

英語名

識別子 NAOJMIT0000054 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



一戸直蔵 変光星観測野帖 Vol 4

解説・備考 一戸直蔵がアメリカから帰国し、東京天文台にいたころの変光星観測野帖であり、1907年(明治40年)10月28日から1911年(明治44年)6月4日のもののうちの一冊である。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第273号

大分類 観測野帳
中分類
小分類

様式
材料 紙

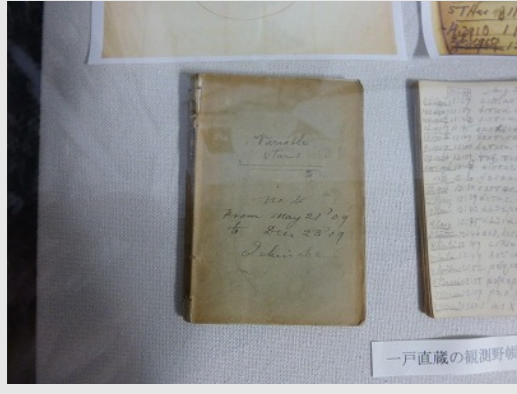
制作者 一戸直蔵

制作時期 1907年から1911年
制作場所 東京天文台
印章・銘記

指定種別
指定番号
指定日付

英語名

識別子 NAOJMIT0000056 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



10cmコロナグラフ1/8模型

解説・備考 乗鞍コロナ観測所の見学室にあった模型である。乗鞍コロナ観測所は1949年(昭和24年)設置され、平成22年(2010年)に閉鎖された。その際、望遠鏡の撤去が行われ、10cmのコロナグラフは太陽観測所が持ち帰り、25cmクーデ式コロナグラフは復元可能な形で分解して三鷹に持ち帰り、この展示室に仮置きしてある。

解説・備考 引用 天文機器資料館解説、アーカイブ新聞第379号

大分類 模型
中分類
小分類

様式
材料 プラスチック

制作者

制作時期
制作場所
印章・銘記

指定種別
指定番号
指定日付

英語名 10cm Coronagraph Model

識別子 NAOJMIT0000057 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



テレタイプライター

解説・備考 テレタイプライター端末は当時のコンピュータの出力装置で、命令を打ち込むキーボードと、その応答を印字するタイプライターで構成される。ビデオ端末とは違って印字することができ、磁気記録装置より手軽に記録を残すために使われていた。

解説・備考 引用

大分類
中分類
小分類

様式
材料

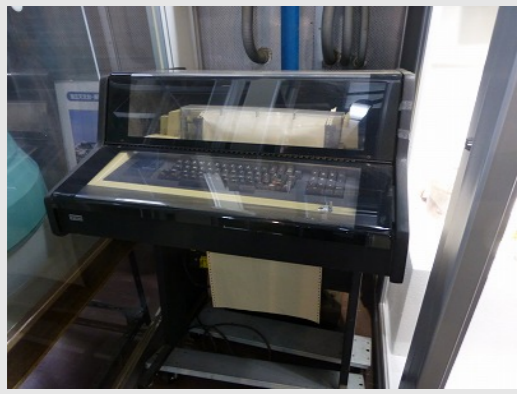
制作者 Digital Equipment Corporation

制作時期
制作場所
印章・銘記 digital DOCWRITER III

指定種別
指定番号
指定日付

英語名 Teletypewriter

識別子 NAOJMIT0000058 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



可搬用経緯儀

解説・備考 測量用経緯儀は、東京天文台構内にあった測地学委員会が設置した三鷹国際報時所から管理替えになったもので、直接には天文観測とは関係ない機器類である。

解説・備考 引用 天文機器資料館解説

大分類 経緯儀
中分類
小分類

様式
材料

制作者

制作時期
制作場所
印章・銘記

指定種別
指定番号
指定日付

英語名 Theodolite for Surveying

識別子 NAOJMIT0000061 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



玉屋経緯儀

解説・備考 明治になってから、天文機器、測量機器がイギリス、ドイツ、フランスなどから輸入されていたが、この経緯儀は日本で製作された珍しいものである。使用された目的はよくわかっていないが、この経緯儀は構造から測量用というよりは天文機器のように思われる。背負うリュック型鞆に入っているため、可搬用になっている。

解説・備考 引用 天文機器資料館解説より

大分類 経緯儀
中分類
小分類

様式
材料

制作者 玉屋

制作時期
制作場所 日本
印章・銘記

指定種別
指定番号
指定日付

英語名 Tamaya Astronomy Theodolite

識別子 NAOJMIT0000065 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



天文振り子時計

解説・備考 この時計は電磁振り子時計で、昭和50年代頃までは東京天文台のどこのドームにもあったものである。通常は標準時計と恒星時計と並べて使った。観測にはその地点の恒星時を知っている必要があり、水晶時計、原子時計出現までは電磁振り子時計が天文時計として使われた。東京天文台の技術者だった山下氏が開発したので「山下時計」と呼ばれている。

解説・備考 引用 天文機器資料館解説

大分類 時計
中分類 振り子時計
小分類

様式
材料

制作者

制作時期
制作場所
印章・銘記


指定種別
指定番号
指定日付

英語名 Astronomy Pendulum Clock

識別子 NAOJMIT0000069 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)



可搬用精密時計



英語名 Carrying Chronometer

解説・備考 これらは日本各地の経度測量が天文観測によって行われた際使われたもので、クロノメーターとも呼ばれている。三角点設置などのため経緯度の天文測量が行われるが、正確な時刻が分かっている必要があり、可搬用子午儀、可搬用天文経緯儀などと一緒に持ち運ばれて使われた。


解説・備考引用 天文機器資料館解説より

大分類 時計
中分類 ぜんまい時計
小分類 クロノメーター

制作者
制作時期
制作場所
印章・銘記

識別子 NAOJMIT0000071 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

ルビジウム原子時計



英語名 Rubidium Atmic Clock

解説・備考 原子や分子には、それぞれに決まっている周波数の電磁波を吸収あるいは放射する性質がある。ルビジウム(Rb)原子時計はガスセルに閉じ込めたルビジウム原子を使い、遷移周波数6.834.682.612Hzを計測して、高精度に時間と周波数を求めるものである。セシウム原子時計より精度は劣るが、短期の安定性に優れているため観測用に使われた。


解説・備考引用 天文機器資料館解説より

大分類 時計
中分類 原子時計
小分類 ルビジウム原子時計

制作者
制作時期
制作場所
印章・銘記 VARIAN

識別子 NAOJMIT0000074 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

セシウム原子時計 HP5061A



英語名 Cesium Atmic Clock

解説・備考 セシウム原子時計は、セシウム原子の吸収・放出する電磁波の周波数を利用した時計である。1967年から国際的な1秒の定義は「セシウム133原子の基底状態の2つの超微細準位間の遷移に対応する放射の9,192,631,770Hzの継続時間とする」とされていた。差は一億年に1秒(10の-15乗)程度とされており、長期安定性を求められる保時、報時に使われた。


解説・備考引用 天文機器資料館解説より

大分類 時計
中分類 原子時計
小分類 セシウム原子時計

制作者 ヒューレット・パッカード社
制作時期
制作場所
印章・銘記 hp 5061A CESIUM BEAM

識別子 NAOJMIT0000075 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

27cm一等経緯儀



英語名 27cm First-order Theodolite

解説・備考 27cm一等経緯儀は、測量器具で測地学委員会(1898年(明治31年文部省内に設置))から、1948年(昭和23年)に東京天文台に移管されたもので、ドイツのアスカニア・バンベルヒ製である。この27cmというのは方位軸の目盛環の直径を示す値で、測量用経緯儀としては国内に存在する最も高級なものの一つである。


解説・備考引用 アーカイブ新聞第87号、88号、天文機器資料館解説

大分類 経緯儀
中分類
小分類

制作者 カール・バンベルヒ社
制作時期 不明
制作場所 ドイツ
印章・銘記 ASKANIA WERKE BAMBERGWERK

識別子 NAOJMIT0000076 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

30mmバンベルヒ経緯儀



英語名 30mm Astronomy Theodolite

解説・備考 この天文経緯儀はドイツのバンベルヒ製である。由来は詳細には分かっていないが65cm赤道儀望遠鏡ドームが国立天文台歴史館に転用される時、バラバラの状態で見つかり、倉庫に移されていたものが発見され復元したものである。接眼部が光電子増倍管に置き換えられており、光電観測の初期の実験に用いられていた痕跡がある歴史的に貴重なものである。


解説・備考引用 アーカイブ新聞第105号、108号、天文機器資料館解説

大分類 経緯儀
中分類
小分類

制作者 カール・バンベルヒ社
制作時期
制作場所 ドイツ
印章・銘記 CARL BANMERG FRIDENAU-

識別子 NAOJMIT0000077 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

東京天文台門標



英語名 Nameplate of Tokyo Astronomical Observatory

解説・備考 東京天文台は、1888年(明治21年)東京府麻布区飯倉狸穴に設置され、1914年(大正3年)から三鷹村の移転工事が始まり、関東大震災後の1924年(大正13年)に三鷹に移転した。この門標はその時、正門の門柱に掲げられたものである。東京天文台は、1988年(昭和63年)国立天文台に改組され、この門標は外された。


解説・備考引用 アーカイブ新聞第95号、天文機器資料館解説

大分類 その他
中分類 表札
小分類

制作者 東京天文台
制作時期
制作場所
印章・銘記

識別子 NAOJMIT0000078 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

リーフラー時計 D.R.P. No. 50739 No.358



英語名 Riefler precision pendulum clock


解説・備考 天文振り子時計(当時は時辰儀とも呼ばれた)は時刻、位置天文観測に使われた精密な時計である。また時刻の基準時計として保時、報時のためにも使われた。この時計は、原子時計出現まで日本を始め世界各国の標準時を保持していた時計で、高性能の自由脱進機が採用されており、時計全体は、下部の鉄の筒と上部のガラス容器で密閉され減圧して約660mmHg程度で使った。これは、使用時の気圧の変動の防止が目的で、気圧を加減して振り子の浮力を加減し周期を微調整する目的があった。


解説・備考引用 アーカイブ新聞第469号、天文機器資料館解説より


大分類 時計
中分類 振り子時計
小分類


制作者 Clemence Riefler社
制作時期 1913
制作場所 ミュンヘン
印章・銘記


識別子 NAOJMIT0000079 収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)


写真天頂筒用調整架台	<p>解説・備考 写真天頂筒の観測時の乾板の交換や、機器の調整用に使われた架台である。</p>	<p>解説・備考 引用</p>	大分類	望遠鏡	
			中分類	その他	
			小分類	調整用架台	
			様式		
英語名			材料		
			指定種別		
		制作者	東京天文台天文時部		
		制作時期			
		制作場所			
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000080	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


写真天頂筒	<p>解説・備考 天頂付近における恒星の子午線通過を、写真方式によって観測し、時刻の決定、緯度変化の測定などを行うための装置。英語名photographic zenith tubeの頭文字から「PZT」ともよばれる。恒星位置を可視光によって地上から観測する装置としては、アストロラーベ、子午環と並んでもっとも高い精度を有する。構造は、鉛直上方を向いて固定されたレンズと、その下方の水銀反射面、およびレンズ直下の小さな写真乾板からなる。</p>	<p>解説・備考 引用</p>	大分類	望遠鏡	
			中分類	反射望遠鏡	
			小分類	その他	
			様式		
英語名	PZT (photographic zenith tube)		材料		
			指定種別		
		制作者	東京天文台天文時部		
		制作時期			
		制作場所			
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000081	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)

おとめ座銀河団模型	<p>解説・備考 この模型は、国立天文台第2代台長であった小平桂一教授を中心としたグループの「銀河の定量分類」という研究成果を模型にしたものである。この研究の初期の部分的な測定結果をもとに、横軸に銀河半径と平均輝度、縦軸に周密度をとって個々の銀河の位置を楕円型、円板型、渦巻型などの形態別に色を変えて示している。</p>	<p>解説・備考 天文機器資料館解説より引用</p>	大分類	その他	
			中分類	展示物	
			小分類	模型	
			様式		
英語名	Virgo Galaxy Cluster Model		材料		
			指定種別		
		制作者			
		制作時期			
		制作場所			
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000085	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


積分球を使った平坦光源	<p>解説・備考 この光源は三鷹の開発実験センターで作成された開発実験用の光源の一つであり、1991年に建設を開始した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の観測装置開発用のものである。観測装置に使用される受光器の感度校正にはむらのない光源が必要なため、積分球を2段に用いた平坦光源である。</p>	<p>解説・備考 天文機器資料館解説より引用</p>	大分類		
			中分類		
			小分類		
			様式		
英語名	Flatness Source of Light using The Integrating Sphere		材料		
			指定種別		
		制作者			
		制作時期			
		制作場所			
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000086	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


ソビエト連邦製人工衛星追跡用 AFUカメラ	<p>解説・備考 ソ連製となっているが、現在ではバルト3国の1つリトアニアの研究者が開発した口径20cmの人工衛星追跡望遠鏡である。この望遠鏡は東京天文台堂平観測所に設置されていた。平成12年(2000年)に堂平観測所が閉鎖された際、行方不明になっていたが、焼津の工場に保管されていることを突き止め、返還され復元されたものである。</p>	<p>解説・備考 アーカイブ新聞第29号、33号、34号、天文機器資料館解説より</p>	大分類		
			中分類		
			小分類		
			様式		
英語名	Satellite tracking telescope AFU camera (Made in the Soviet Union)		材料		
			指定種別		
		制作者			
		制作時期			
		制作場所	リトアニア		
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000087	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


20cmブラッシュャー天体写真機	<p>解説・備考 この望遠鏡のレンズと筒は明治29年(1896年)に日食観測のために購入され、明治35年(1902年)に専用の赤道儀架台が購入された。その後明治41年(1908年)にレンズの非点収差が大きいことがわかり、アメリカのメーカーが無償で新しいレンズを納入した望遠鏡で、小惑星発見などに使われた。</p>	<p>解説・備考 アーカイブ新聞第659号、637号、559号、558号、551号、544号、530号、528号、525号、522号、520号、519号、518号、515号、513号、512号、511号、486号、485号、484号、483号、482号、283号、281号、280号、278号、268号、251号、天文機器資料館解説より</p>	大分類		
			中分類		
			小分類		
			様式		
英語名	20cm Brashear Astrograph		材料	金属	
			指定種別		
		制作者	ブラッシュャー社		
		制作時期	1896年		
		制作場所	アメリカ		
		印章・銘記	Alvan Clark & Sons 1876		
		識別子	NAOJMIT0000089	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


30cm反射望遠鏡	<p>解説・備考 この30cm反射望遠鏡は、掩蔽観測のために製作された3本の望遠鏡の一つである。その後は掩蔽観測に使われなくなり、卯酉儀室と呼ばれた小さなドームに設置された。大沢清輝教授が始めた光電子増倍管を使った3色測光の黎明期を経て、8年間にわたって変光星等の3色測光観測に使われた。</p>	<p>解説・備考 アーカイブ新聞第64号、天文機器資料館解説より</p>	大分類		
			中分類		
			小分類		
			様式		
英語名	30cm Reflecting Telescope		材料		
			指定種別		
		制作者			
		制作時期			
		制作場所			
		印章・銘記			
		識別子	NAOJMIT0000090	収蔵場所	天文機器資料館(三鷹本部)


<p>太陽単色写真機(モノクロ)</p>  <p>英語名 the Sun monochrome photographic telescope (monochro)</p>	<p>解説・備考 この望遠鏡はフランス製で、昭和32年(1957年)設置され、リオフィルターを使って太陽彩層のHα線による連続写真を撮る単色太陽写真機で、通常モノクロと呼ばれた。この望遠鏡のあった区域は、国立天文台移行時に東京大学に渡されたため、建物ごと撤去されたが、2010年にその所在が判明し、回収し展示している。</p>	<p>解説・備考 引用 アーカイブ新聞第9号、47号、天文機器資料館解説より</p> <p>制作者</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所 フランス</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000091</p>	<p>大分類 望遠鏡</p> <p>中分類 屈折望遠鏡</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>ニコン製20cm屈折望遠鏡</p>  <p>英語名 20cm Rfracter</p>	<p>解説・備考 この望遠鏡は宇都宮大学で使用されていたものである。戦後の東京天文台復興に尽力された萩原雄祐元台長は東京大学を定年後、東北大学教授を経て宇都宮大学学長になった。この望遠鏡は萩原氏が学長の頃、宇都宮大学で活躍したことから萩原元台長ゆかりの望遠鏡として収蔵している。</p>	<p>解説・備考 引用 天文機器資料館解説より</p> <p>制作者 ニコン社</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000092</p>	<p>大分類 望遠鏡</p> <p>中分類 屈折望遠鏡</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>日本最古のシュミット望遠鏡</p>  <p>英語名 The Japanese Oldest Schmidt Telescope</p>	<p>解説・備考 昭和10年代後半(1940年頃)、大日本帝国陸軍が暗視カメラの研究を行い、明るい光学系としてシュミット望遠鏡を開発していた。1号機、2号機と完成したが、敗戦により進駐軍にこの軍事研究が咎められるのを恐れ破棄された。戦後残っていた補正レンズを元に球面鏡、鏡筒を作成し完成させたもので日本最古のシュミット望遠鏡である。</p>	<p>解説・備考 引用 アーカイブ新聞257号、203号、天文機器資料館解説より</p> <p>制作者</p> <p>制作時期 1940年頃</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000093</p>	<p>大分類 望遠鏡</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>アメリカ製マンの座標測定機</p>  <p>英語名 Mann Coodinate Measuring Instrument made in U.S.A.</p>	<p>解説・備考 これは2次元座標測定機である。天体写真乾板の天体の位置測定に用いられたもので、その座標を1ミクロンの精度まで読み取ることができる。この座標測定機はよくあるタイプの顕微鏡を覗くものではなく、天体像を投影板に投影して見るため、測定中の姿勢が楽で小惑星の軌道を決めるための測定、土星の衛星の測定などに使われた。</p>	<p>解説・備考 引用 天文機器資料館解説より</p> <p>制作者</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000094</p>	<p>大分類</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>写真濃度測定機</p>  <p>英語名 Photographic Density Measuring Machine</p>	<p>解説・備考 写真濃度測定機は、写真乾板に撮影された像の濃さを測る機器である。天体の明るさを求めるために撮影された像の濃さを測る必要がある。星の像は明るさによって大きさが変わるので、ダイヤフラムを使って、いろいろ工夫された写真濃度測定機が製作されたが現存するものはこれだけである。</p>	<p>解説・備考 引用 天文機器資料館解説</p> <p>制作者 Nikon</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記 SAKURA</p> <p>識別子 NAOJMIT0000098</p>	<p>大分類 測定装置</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属、ガラス</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>ナルミマイクロフォトメーター</p>  <p>英語名 Narumi Microphotometer</p>	<p>解説・備考 マイクロフォトメーターは、1次元走査型写真濃度測定機と言えるもので、スペクトルを写真乾板で撮影していた時代には、スペクトルの解析のためにそのプロファイルを描かせるためには必需品だった。東京天文台時代にはマイクロフォトメーターが数台はあったのだが、全て廃棄され、この機器は水沢の緯度観測所に残っていたものである。</p>	<p>解説・備考 引用 天文機器資料館解説</p> <p>制作者 NARUMI CO.,LTD</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000099</p>	<p>大分類 マイクロフォトメーター</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
<p>アメリカ製リーズのマイクロフォトメーター</p>  <p>英語名 Lees Microphotometer made in U.S.A.</p>	<p>解説・備考 このマイクロフォトメーターは昭和26年(1951年)にアメリカから購入されたもので、知られている限り購入された最古のマイクロフォトメーターであり、国立天文台に残っていた唯一のマイクロフォトメーターである。このマイクロフォトメーターはスペクトル乾板を縦に置いて測定する珍しいタイプのものである。</p>	<p>解説・備考 引用 天文機器資料館解説より</p> <p>制作者 リーズ社</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所 米国</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000100</p>	<p>大分類 マイクロフォトメーター</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>


<p>25cmコロナグラフ(望遠鏡、フレーム中央部、赤緯軸駆動部)</p>  <p>英語名 25cm Coronagraph</p>	<p>解説・備考 25cmコロナグラフは、乗鞍コロナ観測所に昭和44年～46年(1969年～71年)の3カ年計画で建設された望遠鏡で、1秒角を切る高い空間分解能を持ち、観測波長域は3500～11000Åだった。平成22年(2010年)乗鞍コロナ観測所が閉鎖されたのを機に、復元可能な状態で分解し、三鷹に持ち帰り、この展示室に仮置きしてある。</p>	<p>解説・備考引用 アーカイブ新聞第373号、374号、天文機器資料館解説より</p> <p>制作者 日本光学</p> <p>制作時期 1969年～1971年</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000103</p>	<p>大分類 コロナグラフ</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
---	--	---	--


<p>分光光度計</p>  <p>英語名 Spectrophotometer</p>	<p>解説・備考 分光光度計は、単色光を作り出して、これを資料に照射し、透過あるいは反射した光の量を測定して、その波長における資料の透過率あるいは反射率を求める機器である。天文学の場合には写真乾板の波長感度を求めたり、レンズ、フィルターの透過率を求めたり反射鏡の反射率を求めるために使われた。</p>	<p>解説・備考引用 天文機器資料館解説</p> <p>制作者 日立製作所</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000105</p>	<p>大分類</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
--	--	--	--

<p>25cmコロナグラフ(南側極軸フレーム、設計軸駆動部)</p>  <p>英語名 25cm Coronagraph</p>	<p>解説・備考 25cmコロナグラフは、乗鞍コロナ観測所に昭和44年～46年(1969年～71年)の3カ年計画で建設された望遠鏡で、1秒角を切る高い空間分解能を持ち、観測波長域は3500～11000Åだった。平成22年(2010年)乗鞍コロナ観測所が閉鎖されたのを機に、復元可能な状態で分解し、三鷹に持ち帰り、この展示室に仮置きしてある。</p>	<p>解説・備考引用 アーカイブ新聞第373号、374号</p> <p>制作者 日本光学</p> <p>制作時期 1969年～1971年</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000106</p>	<p>大分類 コロナグラフ</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
--	--	---	--


<p>流星写真機</p>  <p>英語名 The Meteor Photograph Telescope</p>	<p>解説・備考 この流星写真機は出張観測用に作ったもので、岡山県瀬戸で最初に使われた。流星機を複数使った流星の多点観測で流星の発光点の高度や実際の経路、対地速度などを求め、原初軌道を算出して彗星との関わりを調べた。流星機の写真は何枚か残っているが、現存するものはこれだけである。</p>	<p>解説・備考引用 アーカイブ新聞第552号、天文機器資料館解説</p> <p>制作者</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000107</p>	<p>大分類 流星写真機</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
--	--	---	--

<p>25cmコロナグラフ(望遠鏡先端部)</p>  <p>英語名 25cm Coronagraph</p>	<p>解説・備考 25cmコロナグラフは、乗鞍コロナ観測所に昭和44年～46年(1969年～71年)の3カ年計画で建設された望遠鏡で、1秒角を切る高い空間分解能を持ち、観測波長域は3500～11000Åだった。平成22年(2010年)乗鞍コロナ観測所が閉鎖されたのを機に、復元可能な状態で分解し、三鷹に持ち帰り、この展示室に仮置きしてある。</p>	<p>解説・備考引用 アーカイブ新聞第373号、374号、天文機器資料館解説</p> <p>制作者 日本光学</p> <p>制作時期 1969年～1971年</p> <p>制作場所 日本</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000108</p>	<p>大分類 コロナグラフ</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
--	--	--	--

<p>目盛環</p>  <p>英語名 Two Graduate Circle</p>	<p>解説・備考 この2個の目盛環は、24吋経緯儀の水平軸の目盛環(大きい方)と玉屋製の経緯儀の水平軸の目盛環と思われる。これらの目盛環は6ミリ波宇宙電波望遠鏡の開発時に角度読み出しのため転用され、宇宙電波観測が野辺山に移った際、野辺山に持って行かれたものが三鷹に帰ってきたものである。元の経緯儀の水平架台は今なお行方不明である。</p>	<p>解説・備考引用 天文機器資料館解説</p> <p>制作者</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所</p> <p>印章・銘記</p> <p>識別子 NAOJMIT0000109</p>	<p>大分類</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料 金属</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
--	---	--	---

<p>東京天文台で使用された顕微鏡</p>  <p>英語名 Four Microscopes used in Tokyo Astronomical Observatory</p>	<p>解説・備考 天文台の〇〇鏡といえば、望遠鏡の類だが、なぜか顕微鏡も結構な数がある。ここに展示してあるものは、万能顕微鏡、硬度測定顕微鏡、普通の顕微鏡、グラスファイバーが用いられた初期のファイバースコープの4点である。顕微鏡の際物台にマイクロメーターがついたものは座標測定器として使われたと思われる。</p>	<p>解説・備考引用 アーカイブ新聞第229号、231号、天文機器資料館解説</p> <p>制作者 Leitz他</p> <p>制作時期</p> <p>制作場所 ドイツ他</p> <p>印章・銘記 Leitz WETZLAR GERMANY 565910</p> <p>識別子 NAOJMIT0000111</p>	<p>大分類 顕微鏡</p> <p>中分類</p> <p>小分類</p> <p>様式</p> <p>材料</p> <p>指定種別</p> <p>指定番号</p> <p>指定日付</p> <p>収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)</p>
---	--	---	--

タイガー計算機



英語名

解説・備考 東京天文台時代の旧測光部のものである。四則演算用であるが、主に掛け算、割り算に用いた。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第159号、659号

大分類 計算機

中分類 手動

小分類

様式

材料 金属

制作者

制作時期

制作場所

印章・銘記

指定種別


指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000114

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

コロナグラフ(望遠鏡下部)



英語名 25cm Coronagraph

解説・備考 25cmコロナグラフは、乗鞍コロナ観測所に昭和44年～46年(1969年～71年)の3カ年計画で建設された望遠鏡で、1秒角を切る高い空間分解能を持ち、観測波長域は3500～11000Åだった。平成22年(2010年)乗鞍コロナ観測所が閉鎖されたのを機に、復元可能な状態で分解し、三鷹に持ち帰り、この展示室に仮置きしてある。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第373号、374号、天文機器資料館解説

大分類 コロナグラフ

中分類

小分類

様式

材料 金属

制作者 日本光学

制作時期 1969年～1971年

制作場所 日本

印章・銘記

指定種別

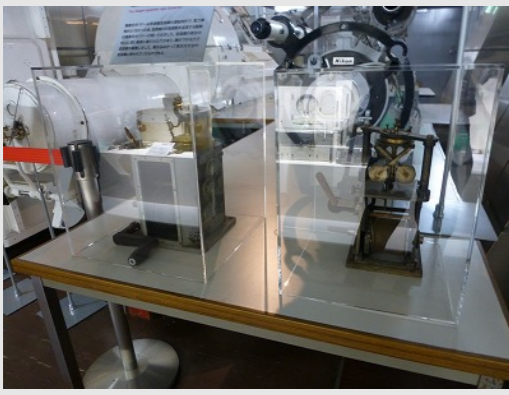
指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000120

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

錘垂式ガバナー



英語名 Two Weight appendix type Gavernar

解説・備考 錘垂式ガバナーは赤道儀望遠鏡の運転時計である。電力事情が良くなかった頃、望遠鏡の日周運動を追尾する駆動は錘垂式ガバナーが用いられた。望遠鏡の架台の中心に深い垂直に掘られた穴があり、錘が下がる力で望遠鏡を駆動した。展示品はかつて東京天文台の望遠鏡に使われていたものである。

解説・備考 引用 天文機器資料館解説

大分類 ガバナー

中分類

小分類

様式

材料

制作者

制作時期

制作場所

印章・銘記

指定種別


指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000121

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

ニコン社製20cm屈折望遠鏡



英語名 20cm Refractor

解説・備考 この望遠鏡は、秋田大学から譲られたものである。国立天文台で有効利用を考え引き取ったが、とりあえず天文機器資料館で展示している。この望遠鏡は赤道儀部分がないため、現状では天体の観望には使えない。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第439号、天文機器資料館解説

大分類 望遠鏡

中分類 屈折望遠鏡

小分類

様式

材料

制作者 ニコン社

制作時期

制作場所

印章・銘記

指定種別


指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000124

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

19cm自動光電子午環



英語名 Automatic Photoelectric Meridian Circle

解説・備考 光電マイクロメーターを使い、計算機制御で天体の位置を精密に決定する望遠鏡である。1984年に完成した。東隣にある20cmゴーチェ電子午環が更新されたものである。しかし、この望遠鏡が完成して間もなく、1989年にヒッパルコスという天体の位置観測衛星がヨーロッパによって打ち上げられた。この衛星によって、太陽近傍の12万個に及ぶ恒星の位置が、地上望遠鏡よりも1桁以上良い精度で観測されたため、この望遠鏡は役目を終えた。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞第668号、416号、415号、412号、287号、244号、146号、天文機器資料館解説

大分類 子午儀

中分類

小分類

様式

材料

制作者 カール・ツァイス社

制作時期

制作場所

印章・銘記 Zeiss

指定種別


指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000127

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)

自動光電子午環コリメーター



英語名

解説・備考 コリメーターは望遠鏡本体の不動点の高さに水平に置かれ、望遠鏡本体と同じ光学系を持ち、本体の南北にある。自動光電子午環が真の南北を指向しているかを検証する手段の一つである。

解説・備考 引用 アーカイブ新聞244号

大分類

中分類

小分類

様式

材料

制作者

制作時期

制作場所

印章・銘記

指定種別

指定番号

指定日付

識別子 NAOJMIT0000128

収蔵場所 天文機器資料館(三鷹本部)